

7月臨時教育委員会議事録

- 1 開催日 令和2年7月22日(水)
- 2 会場 大井川庁舎 3階 大会議室
- 3 開会 午後1時30分
- 4 出席委員 羽田明夫 教育長
大石智之 委員(職務代理者)
奥川重子 委員
山竹葉子 委員
- 5 会議出席者 櫛田隆弘 教育委員会事務局長
池田純也 学校教育課長
寺尾正幸 主席指導主事
朝倉満 学校教育担当係長

書記 片瀬能彰 教育総務課総務担当主幹
- 6 議事 別紙のとおり

羽田教育長	<p>【午後1時30分開会】</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>お忙しい中、7月の臨時教育委員会に御出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>ただいまから7月の臨時教育委員会を開会いたします。本日の会議録署名人は、大石委員と奥川委員にお願いします。</p> <p>なお、本日の臨時教育委員会について、傍聴希望がありましたので、これを認めます。</p> <p>それでは、議事に入ります。</p> <p>議第9号 令和3年度使用の中学校教科用図書の採択について、議題といたします。「教科書採択」という公正さが求められる議案ですので、慎重な御協議をお願いします。協議に際しまして、種目が13種類と大変多くありますので、3つに分けて進めさせていただきたいと思っております。まず、全てに共通する事項、国語、書写、社会、地図を御協議していただき、質疑を行います。次に、数学、理科、音楽、美術、保健体育。最後に技術、家庭、外国語、道徳という順序で、説明と質疑をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
羽田教育長	それでは、全てに共通する事項、国語、書写、社会、地図の4種目について、説明をお願いします。
池田 学校教育課長	<p>それではただ今より「志太地区教科用図書採択連絡協議会」の採択案をご説明させていただきます。「志太地区教科用図書採択連絡協議会」は、教科用図書の採択について必要な調査を行うため、「志太地区教科書研究委員会」を設置しており、焼津市、藤枝市、藤枝市の3地区から総勢38名の研究委員が委嘱を受けました。研究委員は、終日4日間という膨大な時間をかけて、すべての教科書について、調査・研究を行いました。研究は、県の教科用図書専門委員会や各学校からの調査研究報告書などを十分に参考にして進められました。その研究結果は、「志太地区教科用図書採択連絡協議会」に報告され、採択協議会での協議を経て「志太地区教科用図書採択連絡協議会」の採択案として、ここに提示されております。説明に際しましては、採択案として示された発行者のものを中心に、説明させていただきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>まず、すべての種目、すべての発行者に共通することについて説明いたします。どの教科書も学習指導要領改訂の基本方針である「子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれ</p>

た教育課程」を重視すること」、「知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等のバランスを重視する前回改訂の枠組みや教育内容を維持したうえで、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること」、「豊かな心と健やかな体を育成すること」に従い、適切に編集されています。このほか、言語能力の確実な育成、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、体験活動の充実、外国語教育の充実などについて総則や各教科等において、その特質に応じて内容やその取扱いの充実を図ったとされています。

それでは、「国語」について説明いたします。「国語」は、「東京図書」「三省堂」「教育出版」「光村図書」の4社について調査・研究いたしました。相対評価1位として選択した教科書は、三省堂の「現代の国語」です。その理由を報告します。日常生活に身近な話題・題材をあつかった適切な教材により、目標である「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成することができると考えました。3領域の一つ「話す・聞く」の学習では、グループディスカッションなど、ワークショップ型授業の視点が取り入れられ、他者とかかわり、集団で考え、話し合うといった協働する活動が具体的に示されています。「書くこと」の学習では、日常から社会の中で求められる書く能力を確実に身につけられるような単元目標が設定されています。「読む」領域、「話す・聞く」領域と関連づけ、各学年の学習段階と合致するよう構成されています。また、「読むこと」の学習では、多様な言語活動をとおして、読む力を高める工夫がされています。新設された「情報」をはじめ、環境、国際理解、SDGsなど、グローバルかつメディア・リテラシーの視点を養う教材により、論理的・批判的思考力を高めることが期待できます。巻頭で「つけたい力」をわかりやすく掲示したり、教材末の「学びのみちしるべ」では、発展的課題を掲示したりするなど、学習者が主体的に学習に取り組める工夫がされています。また、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域を関連づけ、複合的に扱う単元を系統的に配列することにより、学習の必然性を持たせる仕掛けもしています。それぞれの教材に学習の目的が明確に記され、『読み方を学ぼう』というコラムがあります。その教材を使って何を学ぶのか焦点化されているものです。2年教材の小説『小さな手袋』を例に挙げます。「読み方を学ぼう」で、「象徴」という読む視点が与えられています。『小さな手袋』は小説として様々な魅力がありますが、今回の学習として、表現のもつ「象徴」というはたらきが学びの中心であると示されます。生徒は読む視点を与えられ、この教材での学びの見通しを持つことができます。このように学習の必然性を持たせる工夫が1年から3年まで教科書全体に貫かれています。問題解決的な学習を促すための言語活動を設定したり、資料、挿絵、図表等で生徒の興味・関心を喚起したりして、生徒が主体的に

学習に取り組めるよう、さまざまな配慮がされています。「読み方を学ぼう」では、実践的な言語活動や技能の習得をとおして、他の教科や実社会で生かせる資質・能力を育てることが期待できます。また、多様な様式で言語活動が展開されたり、学習に結びつけて読書にも触れられるよう多くの本が紹介されたりしている構成も三省堂「現代の国語」の秀逸な点です。志太地区の伝統である「わかしだ」や「生活体験発表」にも、大いに役立つ教科書だと考えました。

続いて、「書写」です。「書写」は、「東京図書」「三省堂」「教育出版」「光村図書」の4社です。生徒が学びやすく、確実な書写の力をつけることができると考え、教育出版の「中学書写」を相対評価1位に選択しました。基礎的・基本的な知識及び技能を身につけるとともに、学習したことを実生活に活用できるような内容により、書写の目指す「各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力」を育成することができると考えました。毎時間の学習の進め方がわかるように「目標」が提示されているので、生徒が主体的・対話的に学習することができます。また、小学校段階で求められている「適切に運筆する能力」について、行書の丁寧な導入で接続を図り、確実な力となるような工夫がされています。特に、楷書から行書、発展という配列により、前の学習が生かせる配慮があると感じました。美しい自然や明るさを感じさせる参考作品が挙げられ、手本文字の書きぶりも発達段階に応じたものだと感じました。また、基本点画の名称と書き方について理解できるページを設けたり、筆順に気をつける文字を重点的に扱ったりするなど、特別支援教育に配慮するとともに、外国にルーツをもつ生徒等も含めたすべての生徒への学びやすさを工夫しています。書写で身につけた力を「国語科」の「書くこと」の言語活動や他教科における学習活動、学校生活のさまざまな場面で生かすことができるように工夫されています。巻末には、義務教育9年間で学んだことを「書式の教室」としてまとめ、生涯にわたり実社会で活用できる書写力を意識させる構成を工夫しています。左ページで学習のポイントを確かめ、右ページで教材文字をじっくりと学べる「見開き完結型」の構成で統一されているので、学習に集中しやすく、また、半紙形を維持したワイドな紙面によって、書き始めの位置や字形の整え方、余白のとり方などが実感しやすい。さまざまな文字文化の豊かさにふれ、表現の効果を考えながら書くことを通して、生徒が主体的な文字の使い手となることが期待できます。

続いて、「社会」の説明をいたします。まず「地理的分野」は、「東京図書」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」の4者です。この4者の地理の教科書について調査研究をした結果、志太地区の中学生が学びやすく、教員が活用しやすい教科書として、選択したのは、教育出版の『中学社会地理地域に学ぶ』であります。内容についてですが、「地理にアプローチ」

や「地理の技」を設け、地理的スキルや、資料活用能力を高める工夫がされています。また「読み解こう」が随所に配置され、資料を読み取りながら考察していく学習を通して、地理的な見方・考え方を身につけられるように工夫されています。各単元に「地理の窓」が数か所配置され、興味関心を高めるコラムが多く掲載してあり学習を深めることができるように工夫されています。単元末の特設ページでは「EU統合の課題」や「防災」など今日的な課題をテーマとして多く挙げ、持続可能な社会に向けて、主催者として社会参画への意識が高まるよう工夫されています。次に、組織・配列・分量という視点では、「世界の諸地域」の学習において、各単元の冒頭にその諸地域の「地球的課題」が明示されており、SDGsの視点から今日的課題を意識しながら単元の学習に取り組めるように工夫されています。すべての単元で冒頭に見開き2ページにわたり大きな写真資料を掲載することで単元を概観できるように工夫されています。各章ごとに、「まなびリンク」という二次元コード(QRコード)が掲載され、学習に役立つ情報が入手できるため、学習を深められ、自主的・主体的な学習態度を養えるように工夫されています。生徒の発達の段階への配慮や志太地区の生徒にとってという視点では、中部地方の学習では志太地区に関連する内容(茶、みかん、園芸農業、水産業)が充実しています。また、特設ページ「多文化共生について考える」においても浜松市の例が掲載され、静岡県や志太地区の生徒にとって意欲的に学習することができると感じました。色づかいやフォントがユニバーサルデザインに対応しており、読み取りやすく、誰にとっても学習しやすい教科書となっています。

続いて、「歴史的分野」の説明をいたします。「歴史的分野」は、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「山川出版社」「日本文教出版」「育鵬社」の6者です。この6社の歴史の教科書について調査研究をした結果、志太地区の中学生が学びやすく、教員が活用しやすい教科書として、選択したのは、教育出版の「中学校社会歴史未来をひらく」であります。内容についてですが、各章のまとめを年表と関連付けて、時代の流れをつかめたり、知識の定着を図ったりしようとするように工夫されています。また、地図を活用することで、日本に影響を与えた世界の動きを理解できるよう工夫されている。「歴史の技」を設け、歴史の見方・考え方を具体的に示し、図や表、さらには地図を活用して社会的事象の位置や広がり、地形などの地理的条件との関係性を読み取り、資料活用のスキルを高めるように工夫されています。各章ごとに、「まなびリンク」という二次元コード(QRコード)が掲載され、様々な資料を活用することができ、生徒の思考力・判断力・表現力が高められるように工夫されています。次に、組織・配列・分量という視点では、ページ下にある「問い」や「関連」などにより、他教科や他分野(地理・公民など)における学びが明示されているため、系統的・

発展的な学びに結び付けられるように工夫されています。「歴史の窓」では、既習事項の背景にあるできごとを深掘りし、歴史上有名なナポレオンやペリー、豊田佐吉などを取り上げ、自分たちの地域や現代社会とのつながりを意識できるように工夫されています。生徒の発達の段階への配慮や志太地区の生徒にとってという視点ではページの構成がどのページも見開き2ページで、中央部に説明文、上段に関連する資料(特に写真が多い)、左右に関連する図やグラフなどが掲載されているため、生徒にとって、いつどのページを開いてもわかりやすい構成となるように工夫されています。「身近な地域の歴史を調べよう」では、栄西ゆかりの島田市や東海道の難所としての大井川、「歴史を探ろう」では第五福竜丸が掲載されており、志太地区の生徒が親しみをもちやすいテーマが扱われています。

続いて、「公民的分野」の説明をいたします。「公民的分野」は、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」の6者です。この6者の公民の教科書について調査研究をした結果、志太地区の中学生が学びやすく、教員が活用しやすい教科書として、選択したのは、教育出版の『中学社会公民ともに生きる』であります。地理、歴史、公民の三分野が同じ教科書であるということが生徒や教員にとっても活用しやすいよさがあります。内容についてですが、見開き2ページで1時間の構成となっていますが、必ず「確認」「表現」が設定されており、学習したことを振り返りながら理解を深めるとともに、見方・考え方を働かせながら思考力・判断力・表現力が高まるように工夫されています。模擬裁判や起業にチャレンジなどの実社会に見られる活動を授業で行える場面を設定し、社会参画への意識が高まるように工夫されています。次に、組織・配列・分量という視点では、各章、「学習のはじめに」において単元の課題と見方・考え方を明示されており、生徒が見通しを持ち、見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて取り組めるように工夫されています。各章、単元のまとめの活動では、対話を通して考えを深めながら、課題の解決が図れるように工夫されています。さらに、その際、思考ツールやジグソー法を示すなどし、思考や対話が活性化するように工夫されています。新学習指導要領の改訂の要点の1つである「現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実」について、新たに注目された現代社会の見方・考え方の「分業と交換」「希少性」などへの理解を深めるための内容が盛り込まれています。巻頭でSDGsについて詳しく説明し、毎回、その単元と大きく関わるSDGsの項目を示すなど、SDGsの達成を学習の柱の1つとするように工夫されています。生徒の発達の段階への配慮や志太地区の生徒にとってという視点では「合唱コンクールの練習場所」や「SNSの影響力」になど、取り組みやすい題材が多く設けられ、課題を主体的に解決する態度を養うように工夫されています。色づかいやフォン

トがユニバーサルデザインに対応しており、読み取りやすく、誰にとっても学習しやすい教科書となっています。また、最終的に教育出版と東京書籍との2者で比較しましたが、東京書籍は単元の学習の流れや思考ツールでまとめる活動という一連の流れになっています。この流れでやれば若手教員でも授業ができるが、すべて同じような授業になるのではないかという心配があります。教員が教材研究を深めながら、魅力的な授業を創りあげていくためには、教育出版の方がよいと考えました。教科書の文字の見やすさを比較すると、どちらもユニバーサルデザインに沿っていますが、教育出版の教科書の方が見やすいと思われます。

続いて、「地図」の説明をいたします。「地図」は、「東京書籍」「帝国書院」の2者です。この2社の地理の地図について調査研究をした結果、志太地区の中学生が学びやすく、教員が活用しやすい地図として、選択したのは、帝国書院の『中学校社会科地図』であります。内容についてですが、地理的な見方・考え方を働かせて、主体的に学習することができるような視点となる「地図活用」を随所に設定してあるため、生徒が学習に取り組みやすく、地図活用の技能も高めることができるように工夫されています。資料の年度が新しく、丁寧に作成されています。資料掲載のページでは、自然環境、人口、産業、交通の4つの視点の大きな資料図が掲載され、地図の読み取りや多面的・多角的に考察できるように工夫されています。また、配置や縮尺などに統一性があり、大変見やすいように配慮されています。次に、組織・配列・分量という視点では、QRコードが随所に配置され、様々な資料や動画サイトまで閲覧することができ、生徒が主体的に学習し、資料活用能力を高めることができるなど、大変有効であると思われます。生徒の発達の段階への配慮や志太地区の生徒にとってという視点ではA4版に拡大されたことで、今までより大変地図が見やすくなり、広域な範囲が表現され、地理的な位置やつながりを確認しやすく、生徒の理解が深まるように工夫されています。地図帳全体に可読性の高いユニバーサルデザインのフォントが使用されており、読みやすく、また、色彩表現も配慮してあり地図や資料図も見やすいと思います。世界の諸地域の学習において、各州で鳥瞰図が用いられ、併せて特徴を示すイラストを掲載しているため、その地方を具体的、視覚的に理解しやすいに工夫されています。各州資料のページでは、「日本との結びつき」の資料が掲載されており、日本との関係について、理解を深めることができるように工夫されています。「日本の自然災害・防災」の資料が充実しており、自然災害や防災への意識を高めたり、防災学習などに活用したりできるように工夫されています。また、地形と関連させた地図は発生しやすい自然災害とその対策などが理解しやすいように工夫されています。静岡県の地図が大きく扱われているし、志太地区の関連資料もあり、生徒が知っている地名

羽田教育長	<p>や産物等から地理学習を深めることができると思われます。</p> <p>以上、国語、書写、社会、地図について説明させていただきました。ご協議をお願いいたします。</p> <p>国語、書写、社会、地図の4種目についての説明が終わりましたので質疑に入ります。最初に、種目ごとの質疑に入ります前に、全体的な事項や共通する事項について、質疑がございましたら、御発言ください。</p>
大石委員	<p>教科書について、教科によっていろいろなサイズがある。同じ教科ではほとんどが同じようなサイズになっている。これってというのは、何かガイドラインがあってそうしているのか、同じサイズのほうが、しまいやすいけれども忘れ物もしやすい、バラバラのサイズになっている理由はあるのか。</p>
池田 学校教育課長	<p>ガイドライン等は示されてはいないと思います。各会社が子どもたちの学びを考えてサイズを定めているのではないかと。私も確認しましたが、地図についてはA4サイズが見やすいなど、各会社の工夫であると思います。</p>
羽田教育長	<p>その他どうでしょう。それでは種目ごとの質疑に入ります。最初に、国語については、いかがでしょうか。</p>
奥川委員	<p>今提案のあった教科書に異議を申し上げるものではありません。見させていただいた時に私は、たくさんの教科書をどこから見ようかと思った時に、中1に視点を置きました。学校側の努力があって、今、中1ギャップって言葉が、薄れつつありますが、小学校から中学校へ移るときに、子どもたちは、ハラハラドキドキしながら、心配しながら行くわけです。それが、教科書が新しくなった時に、こんな教科書でやるんだという中学への期待感を教科書をとおして感じるんじゃないかなと、特に国語は日本語ですから大事かなと思って見させていただきました。光村図書を見たときに、工藤直子、西加奈子、瀬尾まいこ、など、本を読んでいる子ならば、「この人載ってる。」って楽しみだなー、すごいなーと私も思いました。教育出版は、国語のSDGsの扱いが結構、やはり国語は言葉の学習だと思うんですが、そこが大事だよってところから広がっていくんだと思うんですが、随所にそれが強調された教科書だなと思いました。東書さんは、小学校で学んだことと、中学1年生での学びが結びついて掲載されていて、それぞれの会社の良さと意図があって、甲乙つけがたいところで選んでいただけるのは、大変だったろうと思いましたが、それぞれの会社でそ</p>

山竹委員	<p>それぞれの良さがあることを、感じました。</p> <p>調査結果の中を見させてもらって、社会科などでは、それぞれの出版社で、このところがわかりづらいとの部分があるので、その辺を比較しながら選択したんだなってわかるんですけども、国語は、それぞれ良いところが並んでいて、どこがポイントになったのかなって、こちらからすると少し分かりにくいっていうのがありました。それぞれ選択するときに、どこかポイントがあると思うんで、悪いところを探しているわけではないですけれども、そこら辺が入っていると、だからこっちなんだなど、そういう風にしていただけるとこちらのほうも腑に落ちると思いました。</p>
池田 学校教育課長	<p>今回、調査研究するにあたって、3つの視点を用意してありました。1点目は内容です。2点目は、組織・配列・分量。3点目として、生徒の発達段階への配慮。これらを総合的に判断して、各社の教科書にはそれぞれ良いところがあるんですが、採択案が決められた経緯があります。</p>
羽田教育長	<p>他にないようでしたら、次に、書写については、いかがでしょうか。</p>
奥川委員	<p>書写がけでなくて、前回の教科書から大きく変わっているのが、QRコードが増えたなって感じます。小学校もある教科書にあったなと思いますが、今度の中学校の教科書はあらゆる教科書にあって、特に、全部調べることはできなかったですが、QRコードが随所にあって、開いてみたいなって思ったんですが、QRコードっていうのは、今後の課題っていうか、教員はすべて開いて、生徒への指導に役立っていると思うんですが、そういう意味では教員の負担も増えていると感じました。教育出版は、説明にありましたが、筆つかいが大変わかりやすいなって感じました。他の教科書と比べると、書写は筆先の動きですから、わかりやすい教科書だなと思いました。</p>
羽田教育長	<p>他にないようでしたら、次に、社会については、地理的分野、歴史的分野、公民的分野とありますが、いかがでしょうか。</p>
大石委員	<p>いろいろな会社の教科書を一通り見させていただいて、前回にくらべてあまり差がなくなっている印象でした。教科書の構成、工夫についてもそうですし、記述内容についても「色」がでていない印象です。よくよく見てみますと、地理の教科書では、教育出版に関しては、焼津に関しての記述がありまして、焼津の遠洋漁業や鯉節工場の写真まであり、これがすべてではないんですけども、地元のものが全国的な教科書に出てるってこ</p>

<p>奥川委員</p>	<p>とが、郷土に対する誇りにつながる意味ではこの教科書を採択することは、非常に良いことだと思いました。</p> <p>教育出版はすべての分野で見開きになってますね。授業の時に大変扱いやすいと感じます。歴史分野においては、現代を意識した書き方があって、歴史は歴史、現代は現代じゃないんだよってことを意識させるには、大変分かりやすい教科書だと。教育出版はSDGsを随所に訴えている。生徒も意識しやすいと感じます。地理的分野の中で、東書でいいなと思ったのは、多くのページに、地図にアクセスっていうのがあって、それがどこの県のことを意識させやすい編集になっているなっていうことを思いました。なかなか小学校でも47都道府県を全部書かせてみたり、日本地図を描かせてみたりされているようですが、教科書に書かれているところがどこなのかってことの結びつきが薄いように感じます。それが大人になったときにどう影響するのか心配するわけですが、このような地図にアクセスっていうのは良いことだと思って思います。授業の展開の中では教員がそういう形をとっていると思いますけれども、目立ったところでした。</p>
<p>山竹委員</p>	<p>社会科は分野別に採択と思うんですが、各分野が異なった出版社になったことはあるんですか。</p>
<p>池田 学校教育課長</p>	<p>調べて報告させていただきます。</p>
<p>大石委員</p>	<p>教育出版の歴史の教科書で印象的なのは、各学習課題のキーワードが工夫されていると思う。興味をひかせる言葉をすごく考えている。最初から最後まで考えてあって、それが学習意欲を駆り立てるのに有効かなと思います。</p>
<p>羽田教育長</p>	<p>他にないようでしたら、次に、地図については、いかがでしょうか。</p>
<p>奥川委員</p>	<p>帝国書院ですが、自然災害・防災について取り扱っている。実生活に結びついた地図帳になっているのかなと感じました。</p>
<p>大石委員</p>	<p>冒頭で教科書のサイズについて話をさせていただきましたが、地図は大きいほうが良いかなと思います。</p>
<p>羽田教育長</p>	<p>他にないようでしたら、次に移ります。次に、数学、理科、音楽、美術、保健体育の5種目について、説明をお願いします。</p>

池田
学校教育長

続いて、「数学」の説明をいたします。「数学」は、「東京図書」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「啓林館」「数研出版」「日本文教出版」の7社です。新学習指導要領が目指す数学科の目標を達成することはもちろんですが、やはり、志太地区で今まで目指してきた授業、これからも大切にしたいことを実現し、そして、志太地区の子供たちが学びやすい教科書を採択したいと思い検討し、志太地区の中学生にとって、学校図書が最も優れた教科書であると判断しました。まず、内容が学習指導要領の教科の目標を達成するために適切であるか、という点については、どの教科書も、学習指導要領の目標を具現化できる、たいへん工夫された質の高いものばかりでした。その中でも、学校図書は、各教科書のよい点を網羅しているといえるものでした。次に、志太地区で目指す授業の視点から、学校図書の教科書が優れているといえる点を4点に絞って申し上げます。1点目ですが、扱う問題数や問題の種類が充実し、様々な具体場面を想定して学習したり、習熟度に応じて扱ったりすることができるということ、そして、生徒が自由に操作できるデジタルコンテンツも充実しており、必要な場所に、適した内容のものがQRコードで散りばめられているということです。これにより、生徒の「知りたい」「学びたい」という思いのもと、基礎基本の定着が図られます。2点目ですが、数学的な見方・考え方を働かせて学習が深められるとともに、対話的な活動ができるような課題が多く取り入れられているという点です。巻末に、「アイデアボード」として、小集団活動で活用できるホワイトボードの代わりになるものも用意されていることから小集団学習での対話活動を重視していることがうかがえます。3点目は、学習と学習の間を生徒自らの「問い」でつないでいけるような構成になっており、志太地区の授業で大切にしている、「自分たちで数学をつくった」と実感できる構成になっているという点です。更に、学びを振り返ることで、生徒に新たな「問い」が生まれ、さらに深い学びにつながるようになってきている点も、子供たちに自ら学ぶ力をつけることができる配列になっているといえます。4点目は、「数学の力」「役立つ数学」など、身のまわりで数学が使われていたり役立っていたりする場面が多数示されており、生徒が数学の有用性や社会とのつながりを実感できるようになっている点です。学んだことを他の場面でも進んで生かそうとする姿勢を育成することにつながります。最後に、小学校でも学校図書を採択しており、子供たちが慣れた教科書を使用することで、中1ギャップを少しでも緩和したいという思いもあるということをつけ加えさせていただきます。

続いて、「理科」について説明いたします。「理科」は、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「啓林館」の5社です。5社ともに、

教育基本法を遵守し、学習指導要領の目標が十分達成できるように、学習内容が吟味されていました。特に観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けること、理科の見方・考え方を働かせ、生徒自らが科学的に探究できること、科学的な思考力・表現力を高めること等が考慮されている点は、すべて共通していました。また、理科を学ぶことの意義や有用性を実感し関心を高めるよう、日常生活や社会と関連する内容を積極的に取り上げていることも共通していました。このような各者の編集の良さを考慮しながら、特に次の3つの採択基準に関しての特徴を重視し、総合的に比較した結果、大日本図書「理科の世界」を選択しました。まず、採択基準1つめの「内容」に関しては、比較したり原因を追究したりする活動を取り入れることで、思考力の育成につながられるような配慮が見られる点。次に、単元末に読解力を育むページが用意されていることで、読解力や思考力等の育成に役立つことが期待される点。そして、キャラクターの会話によって、多様な意見が掲載されており、自分の考えとの意見の違いなどから対話を促し、主体的・対話的で深い学びの実現を意識していることが感じられる点。に特徴がみられました。採択基準2つめの「組織・配列・分量」に関しては、基本操作にそれぞれ丁寧な解説があるほか、情報収集の仕方、単元末問題など、知識や技能の基礎基本をしっかりと身に付けるための内容が充実している点。次に、実験・観察については、「目的」「着目点」が明示されており、生徒が学習のポイントをつかみ、見通しをもって活動できるように工夫されている点。そして、単元のはじめの「これまでに学習したこと」と「これから学習すること」により、それまでの既習事項を振り返り、見通しをもたせて学習を進めることができるように、学習の連続性を大切にしている点。が特徴的でした。採択基準3つめの「生徒の発達の段階への配慮」に関しては、探究の過程で、特に重視させたい部分を「問題を見つけよう」「計画を立てよう」「結果から考えよう」「振り返ろう」という言葉で色を変えて示されており、生徒だけでなく教師も視覚的にわかり、重点をおいての学習につながる点。次に、ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインにより、すべての生徒にわかりやすいよう工夫されている点。そして、コラムや特設ページに、他教科とのかかわりや日常生活との結びつきに気づかされるものが多く掲載されており、現在の学びが日常や身近な職業にどのように活かされるのかがわかり、生徒が理科を学ぶ意義を感じることができる点。さらに、ディスカバリーパーク焼津天文科学館等、静岡県の写真資料が豊富に掲載されており、生徒が親しみをもって学習に取り組むことができる点。が特徴的でした。以上のことから、志太地区の生徒たちが理科の楽しさを感じ、理科で大切にしたい探究的な学びを通して確かな学力を育むために、そして理科と生活との関わりを学ぶことで、今後の人生を豊かにするために、こ

の大日本図書の「理科の世界」が適していることを報告いたします。

続いて、「音楽」の説明をいたします。「音楽」は、「教育出版」「教育芸術社」の2社です。志太地区にふさわしい音楽の教科書の調査・研究に当たり、本地区における中学校、音楽科の状況を確認しました。本地区の中学校では、音楽の各領域において、豊かな音楽性を育むための実践が重ねられてきました。特に合唱など歌唱教材における実践はたいへん充実しており、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養ってきました。それらの実践は、音楽の授業のみならず、よい学級、学年、学校づくりに大きな影響を与えています。本地区では、長きにわたり、志太教育研修会を開催し、授業づくり充実のための研究を重ね、音楽科教育の向上を図っています。また、和文化を身近に感じ、郷土の音楽に取り組んだり、和楽器の演奏に取り組んだりすることを通して、生活の中で音楽と豊かに関わることができるような取組をしている学校が多くあります。学習指導要領の中学校音楽では、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」が求められています。これらをふまえ、次の3つの基準に照らし、本地区において最も適している教科書として「教育芸術社 中学生の音楽」を選択しました。はじめに、教科の主たる教材としての内容を具備し、その内容が学習指導要領の教科の目標を達成するために適切であるか、についてです。題材ごとに学習のねらいがわかりやすい言葉で明確に示されており、何より、学習者が見通しをもって主体的に学ぶことができるようになっていきます。表面的な理解にとどまらず、根拠となる部分が示されており、学習者が納得して学習できるような配慮がされています。例えば、「My Voice」では発声における呼吸法や姿勢についてイラストで解説するとともに声の出る仕組みについてわかりやすく図で説明されています。「深めよう！音楽」では、キャラクターの吹き出しにより、学習のポイントが示されているため、どのように学習を進めればよいかのわかりやすく、友達との交流を通して、主体的・対話的で深い学びが実践できるよう工夫されています。また、歌唱曲が多く掲載されており、生徒の実態に応じた選曲がしやすくなっています。巻頭等の写真から生活の中の音や音楽を身近に感じさせたり、「音楽とは何か」を考えさせたりする問いかけによって、音楽を学ぶ意味や社会とのつながりを考え、生涯にわたり音楽文化に親しんでいく態度を養うことができるよう工夫されています。内容の組織・配列・分量が、生徒の学習にとって適切であるか、についてです。身に付けたい資質・能力の三つの柱と一年間の学習内容を示した一覧が掲載されており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、工夫されています。文章や歌詞、写真や図、楽譜などのレイアウト、バランスなどが考慮され、学びのねらい

にせまるよう効果的に配置されています。視覚情報と音楽を結びつけて捉えることで、音楽活動への展開をスムーズにつなげていくことができるよう配慮されています。次に生徒、学校、地域等の特性や実態を考慮し、生徒の発達の段階に即しているか、についてです。歌唱教材、鑑賞教材ともに小学校での学びを生かしながら、中学生の知的好奇心を刺激するような教材を効果的に取り上げ、生徒が学びの実感を味わえるよう工夫されています。歌唱教材は声域や曲趣など、生徒の発達の段階に応じた教材が適切に掲載されており、本地区の生徒が学習を進める上で適した教材が多いと言えます。

続いて、「器楽」の説明をいたします。「器楽」は、「教育出版」「教育芸術社」の2社です。本地区の中学校は、器楽の実践においては、リコーダーや和楽器など、地域や各学校の特色や実態を生かして取り組んでいます。また、和楽器の演奏に取り組んだりすることを通して、生活の中で音楽と豊かに関わるができるような取組をしている学校が多くあります。このような本地区の状況と、学習指導要領のねらいを踏まえ、3つの基準に照らし、本地区において最も適している教科書として「教育芸術社 中学生の器楽」を選択しました。内容について、それぞれの楽器を、初めて学ぶ学習者の視点に立って編集されています。魅力的な写真で興味関心をもたせ、奏法を示す際は学習者の目線からみた写真を掲載することで、生徒がわかりやすく学べるよう工夫されています。また中学生が興味をもち、かつ易しく奏法を身につけることができるような曲を用いています。

「音楽ってなんだろう」では、様々な国の伝統音楽が生き生きとした写真で紹介されており、音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えることで中学校の器楽への期待感を高めるとともに、音楽の本質を考える手立てとなっています。組織・配列・分量について各楽器の学習は、まずは「鑑賞」からスタートし、続いて楽器の歴史や構造、種類や部分の名称を理解し、次に演奏法へと順序だてて進められるようになっていきます。生徒、学校、地域等の特性や実態や発達の段階への配慮について「アンサンブル」では、生徒が普段から耳にしている親しみやすい曲をはじめとして、豊富な曲が掲載されており、生徒の習熟の程度に合わせて学習できるよう工夫されています。

続いて、「美術」について説明いたします。「美術」は、「開隆堂出版」「光村図書」「日本文教出版」の3社です。相対評価1位として選択した教科書は、日本文教出版の「美術」です。その理由を報告します。日本文教出版の教科書は、どの題材も3つの「資質・能力」の育成にあわせて、全ての題材の目標が整理されています。今回の学習指導要領の改訂で一番の変更点である、美術科としての「知識」をどう捉えるのか、ということについての具体が、全ての題材において示されています。こちらに示した

ように、改訂のキーワードである「造形的な視点」に授業者も生徒も意識が向くようになっており、授業改善に直接的につながります。教科書は、3分冊構成になっています。美術を学ぶことで、15歳の卒業時に、生徒が何ができるようになっているのか、ということが念頭におかれ、3冊を通して系統立てられています。各冊子の表紙左下にそのキーワードがあります。生徒の美術との出会いから始まり、学びが広がり、さらに深まっていく、という3年間の生徒の成長の過程に合わせた題材配列にもなっています。巻末の「学びを支える資料」が大変充実しており、各学年の題材に対応した内容になっています。このページは色についての学習ページで見開きページには色の12色相環があります。しかも、生徒が形や色などの内容を、実感的に捉えることができるように、ページレイアウトの工夫もされています。このように、見開きページを出したまま他のページを見て活用することができます。最後になりますが、作品を体感できる原寸大図版作品数は7点ほど、そしてこの映像のように立体的に立てることのできる屏風のページや、高精細印刷の浮世絵で、鑑賞教育の充実を図り、志太地区の児童生徒が大切にしている「人・もの」との対話が主体的に生まれるような工夫がみられる教科書です。志太地区では美術科の研究テーマ「対話で育む豊かな造形感覚」を設定し授業研究を深めてきています。「もの・こと・ひと」に主体的にかかわり、自分なりの表現を実現しようとする生徒の姿を支援してきました。こうした研究を進めていくうえで、志太地区の実態と照らし合わせて適切な教科書の視点で、次の点にも重きを置きました。生徒の造形欲求を喚起し、発想を広げる魅力的な題材が掲載され、さらに、どの生徒も自分の思いを実現しようと、見通しをもって主体的に表現したり鑑賞したりする学習が期待できる教科書であること。そして、美術科という専門的な知識や技能が求められる教科において、生徒の主体的な学習を保障するために、どの指導者も、その題材で付けたい「資質・能力」や、ふれさせたい造形的な価値を理解すると共に、技能的な側面でも支援できる教科書であること。そして、学習指導要領改訂の主旨である三つの「資質・能力」の育成に合わせて、全ての題材の目標が整理され、生徒にも分かる言葉で示されており、授業者が何を押さえて授業を行うのが分かりやすく示されている教科書であること。以上の視点をもとに、先ほど述べた3社の教科書を十分に比較・吟味した上で、三つの「資質・能力」の育成を生徒にも授業者にも明確に示されている点、そして、生徒の主体的な表現活動を大切にしている点が特に優れている日本文教出版の教科書が、この志太地区の生徒にとって適切な教科書であると考えました。

続いて、「保健体育」の説明をいたします。「保健体育」は、「東京書籍」「大日本図書」「大修館」「学研」の4社です。子どもが自分のこととして

<p>羽田教育長</p>	<p>学習を進められる作り、ライフスキルを高め、自己選択・自己決定を促す工夫（危険予知トレーニング、実習等）、発達段階を考慮した子どもの学びやすさや興味関心を高める工夫（ICTの活用等）の3点から総合的にみて、志太地区の生徒にとっては、東書「新しい保健体育」を選択しました。内容です。課題の発見・把握の場面において、生活経験や学習経験をもとに「学習課題」が設定されているので、生徒が自分のこととしてとらえることができる構成となっています。子どもの思考の流れに沿った展開は、志太地区で大切にしている問題解決型の授業に適していると考えます。要所要所に記述欄が設けられており、ワークシートのように活用し、自分の考えや友達の考えを記載することができます。「活用する」の場面では、自分の考えをまとめ、友達と交流することで、主体的・対話的で深い学びを実現することが期待できます。また、自己の学習の振り返りが可能であり、学習の積み上げを視覚的に確認することができます。「防災・安全」「環境」「共生」「多様性」等、今日的な課題を取り上げており、変化していく時代に自分がどのようにかかわり行動していくか、具体的な考えをもつことができ、主体的な行動決定や行動選択につなげやすくなっています。自然災害に関する内容が充実しており、特に志太地区の中学生に学ばせたい災害時の危険回避行動、情報の入手方法、避難所生活、地域とのかかわりなど、防災に関する具体的な内容が盛り込まれ、充実しています。放射線と健康についても扱っており、原子力発電所30km圏内にある志太地区において、放射能に関する教育の充実を図ることが期待できます。組織・配列・分量です。見開き1単位構成で「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」という問題解決型の学習によって、生徒が見通しをもって思考力・判断力・表現力を高められる配置になっています。カリキュラム・マネジメントを意識し、他教科との関連について示されています。Dマークコンテンツを活用し、関連した内容について更に深く学ぶことができるよう工夫されています。児童生徒の発達段階です。絵や章末資料、読み物など学習意欲が高められる資料が多く、シミュレーションや動画等Dマークコンテンツが充実し、ICTを活用した授業において、生徒の理解の深化や活動の意欲づけに効果的であると考えます。危険予知トレーニングを通して、自分の課題としてとらえ、習得した知識を活用し、実践的な力をつけることが期待できます。特に「6 自然災害による傷害の防止」の海岸での危険予測や回避行動は、志太地区の生徒に身につけさせたい力であると考えます。以上、5種目について説明させていただきました。ご協議をお願いいたします。</p> <p>数学、理科、音楽、美術、保健体育の5種目についての説明が終わりましたので質疑に入ります。最初に数学については、いかがでしょうか。</p>
--------------	--

奥川委員	<p>今までの数学って、こんなに生活に結びつけることが多かったでしたか。役立つ数学、実際の生活と、どういう関わりがあるんだってところを何か所か見つけて、数学って机上の空論じゃないんだって思いを新たにしたんですが、数学の方向性ってそうなんですか。</p>
池田 学校教育課長	<p>子どもたちに主体的に学ばせるための教科書会社の工夫だなと思います。授業の中でも、ただ数学を扱うこともあります、身の周りとの結びつきを考えているのが、今の数学かなと思います。</p>
奥川委員	<p>数学が得意でない私としては、小学校で学んだことの活用だよという記述が何か所かあって、算数から数学なったけどそんな難しいもんじゃないんだよってというようなページをいくつか見つけてこういうのが興味づける一つの大きな要因だと感じました。</p>
羽田教育長	<p>他にないようでしたら、次に、理科については、いかがでしょうか。</p>
大石委員	<p>説明の中で、ユニバーサルデザインやカラーユニバーサルデザインという言葉がでてきましたが、教科書の中で、どういった工夫がされているか教えてください。</p>
池田 学校教育課長	<p>見やすさという点で言えるともいます。まず、子どもにとって読みやすいフォント、大きさ、書体です。それから色です。子どもによっては目がチカチカしてしまう色があるようで、それに配慮したものです。</p>
大石委員	<p>教科書会社は、大体そういったものを考慮し定るってことでいいですか。</p>
池田 学校教育課長	<p>はい。</p>
奥川委員	<p>大日本図書の表紙に何か意図はあるんですか。</p>
池田 学校教育課長	<p>後日、報告します。</p>
奥川委員	<p>感想ですが、大日本図書は、ハテナの学習課題が大変いいなと思いました。理科も数学もそうですが、生徒の探求意欲を掻き立てることが、教員</p>

<p>羽田教育長</p>	<p>の課題だと思いますが、大日本図書のハテナは易しすぎず、難しすぎず授業の流れを壊さないようなハテナ。なかなかこれだけのハテナを作るとは難しいだろうなと思いますが、他の教科書と比べていいなと感想を持ちました。</p> <p>他にないようでしたら、次に、音楽については、いかがでしょうか。</p>
<p>奥川委員</p>	<p>教育芸術社のMy Voice、歌をうたう準備ってというのが、他の教科書と比べて分かりやすいんだろうなと思っていました。子どもたちの心の豊かさがないと、あるいは、豊かさを育てるための教科だと思いますので、表紙もいいなと思いました。</p>
<p>羽田教育長</p>	<p>他にないようでしたら、次に、美術については、いかがでしょうか。</p>
<p>奥川委員</p>	<p>思わず見とれてしまうような表紙であり、内容が日本文教出版の教科書だと思いました。すてきだなと思うページが、いっぱいあって、教科書でなくて、自分で日常的に見ていたいと思う教科書です。美術の時間はあまり多くないと思いますが、このような教科書を見て夢を描くことができる良い教科書だなんて感じました。心が豊かになる教科書だなんて感想を持ちます。</p>
<p>池田 学校教育課長</p>	<p>連絡協議会の中でも委員から日本文教出版の色がとても良いと、原作により近いとの説明がありました。</p>
<p>大石委員</p>	<p>感覚的なものでしかないんですけど、美術はビジュアル的に目に入り、感性に訴えるものが美術の教科書には必要だと思うんですけども、3社のうち、今回採用された教科書は中間にあるんだと。光村さんは、美術の思考的なものであり、開隆堂さんは感性に訴えるものが際立っていて、そういった意味では、バランスが取れている教科書だと感想を持ちました。</p>
<p>羽田教育長</p>	<p>他にないようでしたら、次に、保健体育については、いかがでしょうか。</p>
<p>奥川委員</p>	<p>豊かなスポーツライフというページがあるんですが、今、生涯スポーツのことが話題になります。すてきだな、将来やってみたいなっていうページがもっとあってもいいのではないかと思います。感染症のこともあり、コロナについてどのように扱っていくのかって課題がある中で、生涯スポーツへのいざないっていうのはもう少しあってもいいかなって感想を持ちました。</p>

<p>羽田教育長</p>	<p>それでは、最後に技術、家庭、外国語、道徳の4種目について、説明をお願いします。</p>
<p>池田 学校教育課長</p>	<p>それでは、「技術分野」の説明をいたします。「技術分野」は、「東京書籍」「教育図書」「開隆堂出版」の3社です。3社の教科書について、学習指導要領の主旨に基づき、選定基準を3点で検討した結果、農業、水産業、工業、伝統技術が共生する志太地区の実態を鑑み、題材や資料が豊富で見やすく、種々の事象を生徒にとって身近な問題として捉えられる開隆堂の教科書を相対評価1位としました。以下に、3つの選定基準に即して、その優位性を述べたいと思います。内容です。実習例には、「身近な問題の発見」「社会とのつながり」という項目を設け、製作において技術を最適化できるように促す工夫がある。どの内容においても、1章の冒頭で生活や社会を支える技術について大まかに紹介して生徒の関心をひいています。次に基礎的な技術の学習、問題解決の学習（設計、実習）、既習事項と未来との関わりの学習という構成をとり、持続可能な社会を構築するための意識を段階的に醸成できるように工夫されています。また、技術の役割と課題、今後について触れ、今ある技術を様々な側面から評価すること、技術を工夫すること、さらに新しい技術を生み出す必要があることを投げかけ、持続可能な社会構築に向けて考えさせるとともに、実践的な態度を養う内容となっています。組織・配列・分量です。「問題解決の流れ」があり、問題解決のための手立てやヒントだけでなく、見通しをもって学習できるように配慮がなされています。「課題」という窓を設け、社会的側面を考えさせるページもあります。生徒の発達の段階への配慮です。生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会的側面、経済的側面、環境的側面に着目して学習できるように工夫されています。内容、項目ごとに学習の目標が明示されている。また、「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」という投げかけが目標の下に設けられ、生徒自身が、その内容において何について考えていくべきか、また、何を解決していくべきかがわかるようになっています。開隆堂の教科書は、3つの選定基準においても、また、「技術の見方・考え方を養い、技術を最適化するための内容の充実」、「生徒が意欲的に学習を進められる問題解決的な内容の充実」、「持続可能な社会を構築するための、技術を誠実かつ実践的に扱う内容の充実」のどれをとっても申し分ないものとなっていると判断しました。</p> <p>続いて、「家庭分野」の説明をいたします。「家庭分野」は、「東京書籍」「教育図書」「開隆堂出版」の3社です。この3社の中で、指導要領を忠実に解釈し、編集するとともに、以前より問題解決的な学習に取り組んで</p>

きた志太地区の教育の特性から、この地区の生徒が興味・関心をもって取り組める教科書として、開隆堂が最も適していると考えます。また、志太地域は、食材が豊富で多くの野菜なども生産されています。さらに、家族構成では比較的3世代同居の家庭も多く、このような地域の特色を生かした共生社会の実現をめざす上でも、生徒の思考に沿ったものであると考えます。それでは、開隆堂が優れている点について大きく2点述べたいと思います。まず1点目は「主体的で対話的で深い学び」を考えた学習構成及び内容となっていることです。各領域とも「わたしの興味・関心」というページからスタートします。これは、課題の発見に繋がり、学習が終わった時に再度記入することができるため、学習の変容が見てとれます。どの題材も導入の課題があり、学習の途中には学びを理解するために「話し合ってみよう」「やってみよう」といった小課題が設定されています。それにより、人やもの、こととの対話が実現します。「生活にいかそう」では、学びによって獲得した知識や技能を生活に活用することに繋がります。また、生活に生かしていく意欲や態度を育てることにもなります。「生活の課題と実践」では、学習の発展として課題を設定し課題解決に取り組む実践例が豊富です。長期休暇などに時間をかけて取り組むこともでき、学びを深めたり広げたりすることができます。もう1点は、これからの時代を見据え社会に目を向ける学習内容が豊富であるということです。各内容の最後には「持続可能な家庭生活」というように持続可能な社会の実現を位置づけた内容があります。持続可能な社会の実現は人類共通の課題であり、繰り返し学習することができるため、理解を深めていくことができます。さらに、教科書名にもあるように共生の視点多いと考えます。ジェンダー、LGBTなど多様性のある事例が豊富です。また、新設された「高齢者とのかかわり、介護、地域の人々との協働」では、多くのページがさかれ、家族や地域の人と関わり、互いに尊重し、共に生きていく力の育成に繋がると考えます。以上のことから、開隆堂の教科書を相対評価1位としました

続いて、「外国語」の説明をいたします。「外国語」は、「東京書籍」「開隆堂出版」「三省堂」「教育出版」「光村図書」「啓林館」の6社です。以上6社の教科書を検討した結果、光村図書の教科書を相対評価1位としました。この教科書は、場面・状況が大事にされており、教科書の登場人物と自分を重ねて考え、表現できるような構成になっています。また、各単元のGoal activityが本文の内容とつながっており、生徒にとって学びやすさがあります。構成が4人の中学生の成長していくストーリーとなっており、学習者と場面・状況が近い設定となっています。設定されたコミュニケーションの目的やねらいが明確なため、生徒が活動を通して情報交換をして良かったと思うと共に伝え合うことの価値を感じられ

る内容です。各ユニットにゴールの活動が設定されており、small stepで学んだことを生かすことができます。更に大单元ごとに設定された表現活動「You Can Do It!」は生徒一人一人が、自由に自分の思いや考えを表出できる内容となっており、コミュニケーションの深まりが期待できます。また、絵を見てUnitの内容を自分の言葉で話す「Story Retelling」や、即興でのやりとりする力をつけるためのペアトークやスピーチを行う「Let's Talk」があり、話すことで言語材料や文法事項の定着を効果的に図ることができます。登場人物が描かれたイラストから場面を推測し、映像資料と音声資料から大意を推測するという構成になっており、小学校からの学び方につながっています。また、教科書のストーリーが3年間を通してつながりのある内容になっており、新学習指導要領で大切にされている「目的・場面・状況」が自然に押さえられています。その設定の中で生徒が、自分と重ねながら内容に興味・関心も持ち、自分なりの思いを表現することができるものであると考えます。

最後に、「道徳」の説明をいたします。「道徳」は、「東京書籍」「教育出版」「光村図書」「日本文教出版」「学研」「廣済堂あかつき」「日本教科書」の7社です。志太地区で使用することに、最も適した教科書は「光村図書きみがいちばん ひかるとき」であるとししました。その理由について申し上げます。「特別の教科 道徳」は、新学習指導要領では「問題解決的な学習を取り入れること」や「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢」、「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』への転換」が重視されています。すると、教科書や教材に求められるのは、道徳の授業において「問題解決的な学習が成立すること」、「多様な価値観を生み出せること」、「自分事として考え、議論できること」です。また、道徳は昨年度から先行実施され、「光村図書」の教科書が、学校現場では既に1年間使用され、2年目に入っています。教員も生徒も教材に慣れつつあり、授業改善や評価の研修も進んでいます。そういう意味では、3観点において、他社が、光村図書の特長を超えているかという視点も必要だと考えます。

それでは光村図書の教科書の良さを3つに分けて、具体的に申し上げます。まず、1つめ、多面的、多角的な見方、考え方が発揮され、議論できる情報があり、多種多様なジャンルの魅力ある教材が掲載されていることです。例えば読み物教材だけでなく、新聞記事、読者の投稿、手紙、データ、グラフ、随筆、詩、歌詞、マンガの1場面、小学校の道徳教材等があり、その内容は、いじめや情報モラル、いのち、尊厳死、税金、人種に対する偏見、マイクロプラスチック、SDGs、アンガーマネジメント、

ネットゲーム、臓器提供、避難所生活、男女間の友情等の昨今の重要な話題やテーマが取り上げられ、中学生を飽きさせないバラエティに富んだ内容となっており、生徒から多面的・多角的な意見が出され、複数の価値について考え、議論することが可能です。科学的な情報が掲載されている教材もあり、心情面を追求するだけでなく、根拠を伴った正確な議論が行われることも期待できます。3年の教科書では、国語で学習する論語や魯迅に関連した教材が掲載されており、相互に学びを深めやすくなっています。どの学年にも、中学生が好む柔らかいタッチで描かれたマンガ教材があり、それぞれ「正義」「許す」「自立」とは何かと問いかけ、教師でも簡単には答えが見つからない、多種多様な答えが広がる問いかけをしています。また、各学年とも半数程度の教材に、QRコードが付いており、内容と関連した情報を得られたり、プロの音読が聞けたりします。たとえば1年の、自然環境や畏敬の念を屋久島の原生林から学ぶ「命の木」では、QRコードを開くと、屋久島の屋久杉記念館のHP、筆者椋鳩十の略歴、屋久島の代表的な杉である「縄文杉」「大王杉」「紀元杉」などの写真を見ることができ、今後1人1台配備されるタブレットで、生徒が簡単に情報を入力することができます。2つめです。光村図書の教科書は、学校生活に沿った内容と配列で、教材の質や文章量も適切です。例えば、読みもの教材は、洗練された質の高い表現で書かれており、前向きで希望的な結末から、学習する道徳的諸価値に迫りやすくなっています。各教材の最後にある問いが、「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」の3点セットになっており、「考えよう」では教材の内容や主人公の行動や情について考え、次の「見方を変えて」では教材の別の登場人物の視点で考え、最後の「つなげよう」は、自分のことや学校生活とつなげて考える、となっており、終末では教材から離れ、普段の自分の生活での道徳的実践意欲が高められるよう構成されています。最後に3つめとして、光村図書の教科書は、中学生の実態と合致し、自分事として考えられるようになっていきます。例えば1年生が入学直後に学ぶ教材として「自分で決めるって？」が配置されており、自立の最も重要な要素である「自分で決める」ことが取り上げられ、部活動の入部選択に直面する1年生が、まさに自分事として捉えることができます。また、小学校の道徳教材を中学生の視点で学び直す教材が全学年掲載されています。(中1が小1の橋の上のおおかみ、中2が小4の泣いた赤おに、中3が小6の手品師) 多様な視点や考え方をもてるようになった自分や友達の成長をメタ認知できるよう工夫されています。○長い文章を読むことが苦手な生徒にとって、どの教材も授業導入時の抵抗感が少なく、中学生が好むタイプの絵やイラスト、写真やマンガが効果的に使われており、画一的ではない、構成の自由さが感じられます。これは他の教科書にはない特徴です。付属のDVDには、学習した教材を学級通信

	<p>として紹介できる資料が全教材分入っており、たよりを配付することで、家庭で保護者と生徒が、道徳の授業や価値について話し合うことも可能となります。以上の点から、志太地区の中学生にとって、学びやすく道徳のねらいを達成するためにふさわしい教科書を「光村図書 きみがいちばんひかるとき」といたしました。以上、最後の4種目の説明を終わりますので、ご協議をお願いします。</p>
羽田教育長	<p>技術、家庭、外国語、道徳の4種目についての説明が終わりましたので質疑に入ります。最初に技術については、いかがでしょうか。</p>
奥川委員	<p>技術、家庭と大変内容が多いと思いますが、どうなのでしょう。技術も家庭も授業時数は少ないですね、これらを授業計画の中で、自分の学校では、これとこれってやっていくんでしょうけれども、大変多すぎるのではないかというのが感想です。実際に見て、聞いてつというところにQRコードがあると思うんですが、技術、家庭はあらゆるところにQRコードがあるってことからすると、教員大変だな、子どもたちにどう紹介していくのかなって思いがしたんですけれども、多いなーっていうのが正直な感想です。それと、コンピューターの関係のものが何ページかにわたってあります。これに載っているプレゼンテーションやプログラミングは、コンピューターが導入されたときは、小学校は慣れるって感じでしたが、プレゼンテーションやプログラミングが子どもたちの生活に入り込んでいるとしたら、ここに載っているということはどういう意味なんだろう、将来的にコンピューターを駆使できなければいけない今の子どもたちにとってなんなんだろうっていうのが疑問でした。</p>
池田 学校教育課長	<p>私も、量が多いと感じましたが、学校での授業で扱うときには、学習指導要領にのっとして、教員が単元構想し授業を行っていくと思います。教科書の内容をすべて授業で行うことは不可能なので、教科書を活用しながら授業を組み立てているのが現状です。子どもたちにとって興味のある部分について、教科書でじっくり調べることができる内容になっていると思います。プログラミング教育についてですが、中1を調べてみて、すでに小学校で履修しているようであれば、復習を行った後に、中学校で学ぶべき授業に入ります。QRコードについては、教科書会社や単元により様々で、教員はすべて見ると思いますが、全てを授業で使うとは思いませんし、子どもが一人一台端末で自主的に学習することができると感じました。</p>
羽田教育長	<p>他にないようでしたら、次に、家庭については、いかがでしょうか。</p>

奥川委員	<p>技術も家庭も課題解決学習が中心となっている。自分で課題に向かってじっくり取り組むためには、やはり内容が多いというのは感想です。現場では、大変だろうなって、当然、取舍選択し年間指導計画にのっとってやっているのも大丈夫だよって言われるのかもわかりませんが、時間数が減って、この内容はないだろうなって感想です。</p>
羽田教育長	<p>他にないようでしたら、次に、外国語については、いかがでしょうか。よろしいですか、ないようでしたら、次に、道徳については、いかがでしょうか。</p>
大石委員	<p>自分は国語が苦手な、道徳の教科書が国語みたいではやだなと自分で感じたものですから、そういう視点で各社の教科書を見させていただいて、先ほど説明にもありましたが、光村図書の教科書は、文章の並べ方が上手で、視覚的に読みやすい。ところどころに挿絵や写真があり、色に工夫があったり、他社と比べたら優れていて、良いと思っています。</p>
奥川委員	<p>光村さんの表紙が「君が一番光るとき」。私はこれが良いなって思いました。道徳っていうと固い感じがありますが、救われる感じがします。感想です。</p>
羽田教育長	<p>他にないようでしたら、全体を通して、何かございませんか</p>
山竹委員	<p>先ほど、量の話がありましたが、全般的に、ページ数の中にたくさん入っている感じがしました。昔は、最低限のものしか入っていなかった。今は、ありとあらゆるものが入っている。感想です。あと、どの出版社の教科書でもコストは同じですか。</p>
池田 学校教育課長	<p>無償です。</p>
羽田教育長	<p>他にないようでしたら、これで質疑を終了いたします。それでは、志太地区の採択案の説明をお願いします。</p>
池田 学校教育課長	<p>国語は三省堂、書写は教育出版、社会は教育出版、地図は帝国書院、数学は学校図書、理科は大日本図書、音楽・器楽は教育芸術社、美術は日本文教出版、保健体育は東京書籍、技術・家庭は開隆堂出版、外国語（英語）は光村図書、特別の教科道徳は光村図書、以上のようになっております。</p>

羽田教育長	<p>それでは、議第9号 令和3年度使用の中学校教科用図書の採択について、お諮りします。議第9号については、志太地区教科用図書採択連絡協議会の採択案に同意することに、御異議はございませんか。</p>
全委員	<p>異議なし</p>
羽田教育長	<p>同意することが議決されましたので、当委員会は志太地区教科用図書採択連絡協議会長へ同意書を提出することにいたします。事務局は、同意書を提出してください。</p> <p>以上で、本日、予定していた議事は、全て終了いたしましたので、7月臨時教育委員会を閉会いたします。</p> <p>皆様、お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: right;">【午後3時25分閉会】</p>